

コミュニティ・スクールについて



①コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは

学校運営協議会が設置された学校

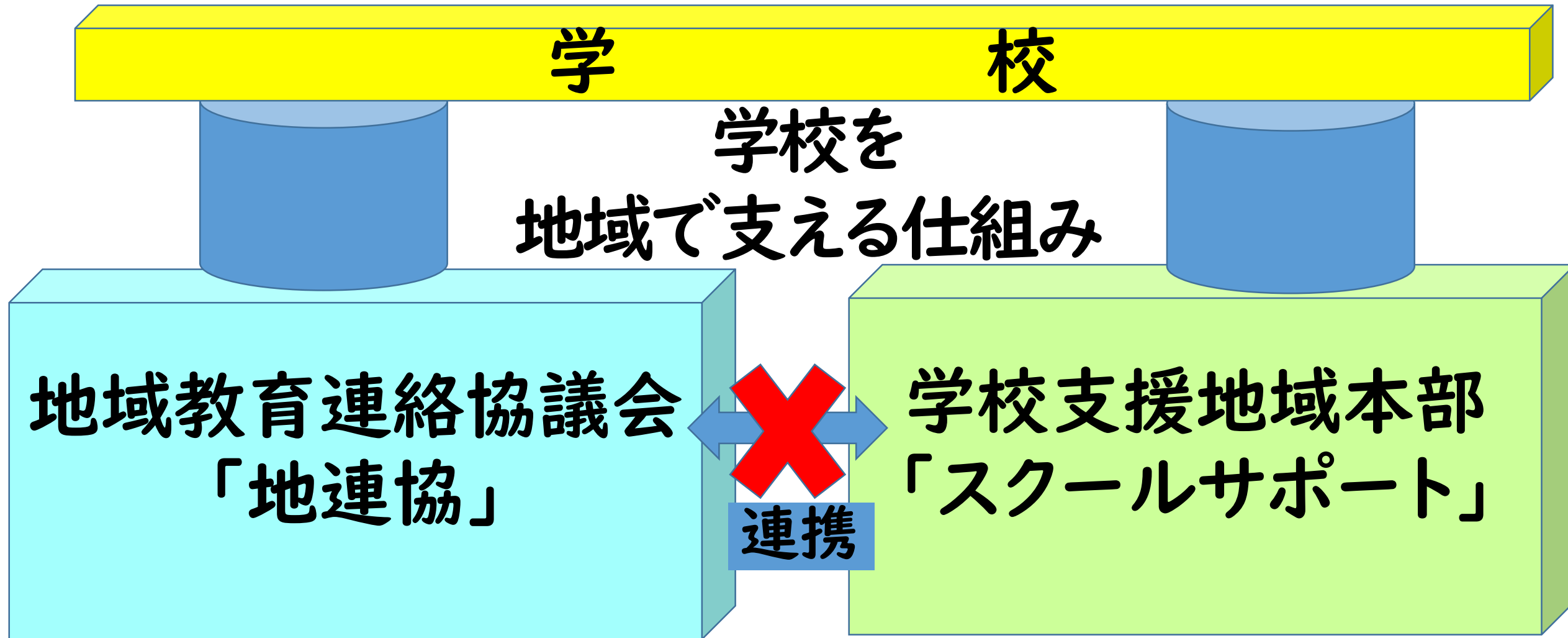
＜背景＞ 「地域とともにある学校」を目指すための仕組み

急激な社会の変化に伴い、学校の課題が複雑化・多様化
地域社会のつながりが希薄化

＜経緯＞

令和 3年度	モデル事業実施	大田区学校運営協議会規則策定
令和 4年度	CS正式導入	(小学校3校 中学校2校)
令和 5年度	小学校15校(+12)・中学校4校(+2)	でCS導入済
令和 6年度	小学校26校(+11)・中学校10校(+6)	でCS導入済
令和 7年度	6月1日現在	
	小学校34校(+8)・中学校11校(+1)	でCS導入済

②大田区の現状（CS導入校以外）



制度上両者に連携体制なし

③大田区におけるコミュニティ・スクール（CS）

地域

学校

学校運営協議会
「学運協」
地連協を土台に設置

委員は特別職の地方公務員

協働

地域学校協働本部
「スクールサポート」
学校支援本部を名称変更

コーディネーター

愛称は引き続き使用可

保護者

民生児童委員

自治会・町会

青少対

保護司

その他の団体

<学校運営協議会の主な役割>

- (1) 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること **【必須】**
- (2) 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること **【必須ではない】**
- (3) 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べることができること **【必須ではない】**

※(2)(3)は、協議体としての合議での意見申出

※(3)は、特定の個人への意見申出は不可

<補助金の加算>

コミュニティ・スクールを導入した学校には、協働体制を組んでいく地域学校協働本部への12万円の補助金に、加算される。

コミュニティ・スクールを導入1年目

12万円に 5万円が加算されて、17万円

コミュニティ・スクールを導入2年目以降

12万円に 10万円が加算されて、22万円

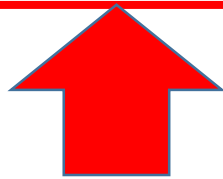
学校運営協議会の運営と、地域学校協働本部の活動の拡充に活用することができる。

コミュニティ・スクール(CS)とは何か？

学校・地域・保護者などが集まり、
地域のこともたちのために、



「一緒に話し合う会」

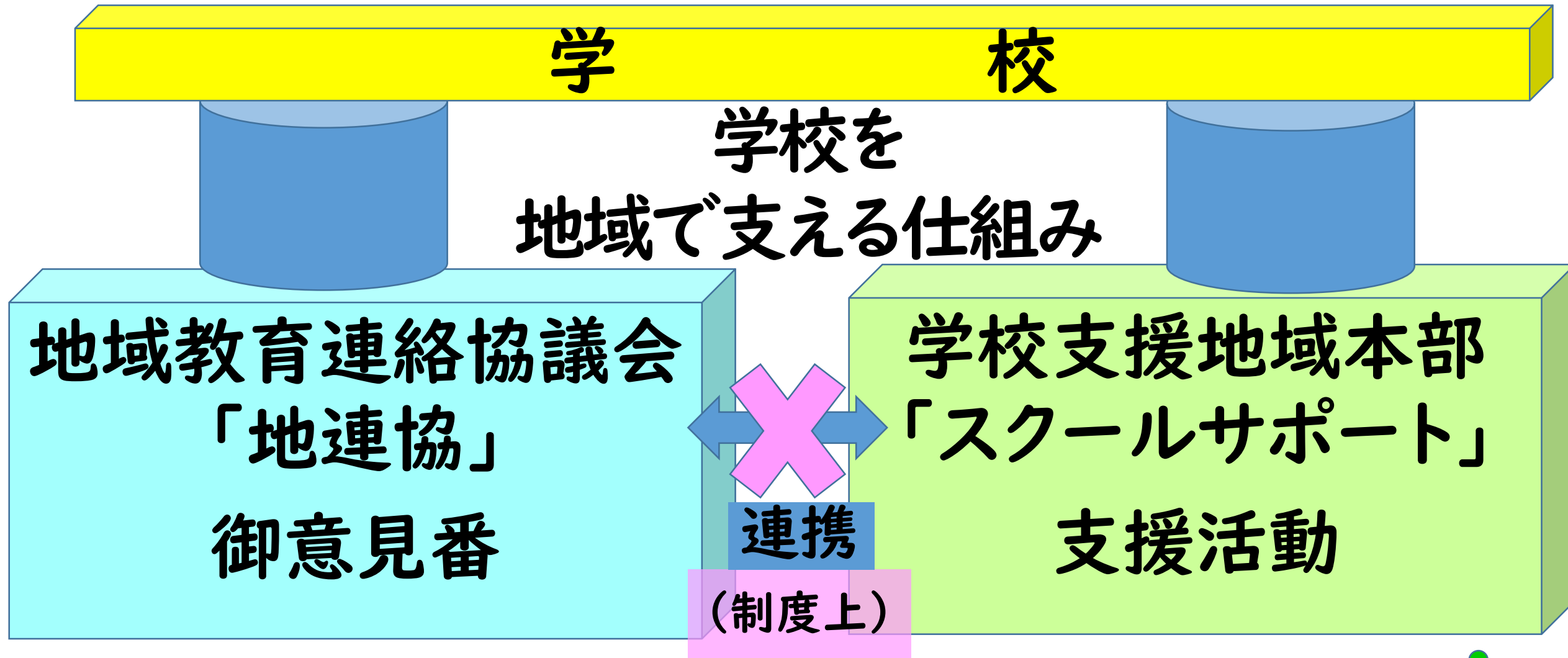


をつくった学校

学校運営協議会

法律に基づいて、日本全国で進めている取組

<これまでの学校支援体制>



CS導入により、仕組みを変更する

<CS導入後の地域学校協働体制>

地域

学校

地域と学校が連携・協働して
学校内外で活動する仕組み

学校運営協議会
「学運協」

コーディネーター

地域学校協働本部
「スクサポ」

特別職の地方公務員として
主体的に参画

協働

地域住民等の参画を得て
協働活動

車の両輪のような協働体制

<学校運営協議会の主な役割>

【方針決定】

法に基づき、保護者や地域住民などが
一定の権限をもって学校運営に参画する

子どもや
学校をめぐる
教育的な課題や
教育目標を共有

必要となる
教育活動を協議



学校運営の評価
改善に向けた協議

「地域と
ともにある
学校」
づくりの推進

キーワード

「話し合い」



CSになると、何が変わるのか？

①「つながりのある話し合いの場ができる」

- いろいろな立場の方々が一緒に集まって
- 未来を担うこどもたちの成長を育むため



<どんなことが話し合われたか>

池二小事例 「九九マスター教室」の取組

令和6年度 第1回学運協（4月6日）

①放課後補習教室の現状（九九ができない子）の報告



学運協の活動とすべきか協議

情報共有

②学運協として取り組むことを承認

「算数が苦手な子にも九九をマスターさせよう」



（学運協会長と学校で打ち合わせ）

ビジョンの共有

令和6年度 第2回学運協（6月8日）

③3年生向け夏休み「九九マスター教室」の提案

↓ 実施方法を協議

④実施方法の承認

夏休みに6日間開催

「地域の先生」としてサポーターを募集

参加していた委員から、サポーターの推薦

アクションの共有

↓（参加する子の募集と、「地域の先生」の募集）

九九マスター教室の開催（7月22・23・24・25・26・29日）



参加した子の保護者向け手紙配付(7月29日)

⑤保護者への実施報告

「成果」と「継続した家庭学習のすすめ」

令和6年度 第3回学運協(9月28日)

成功体験の
共有

⑥学運協委員への実施報告

「参加児童数」延べ84名 「指導者数」延べ51名

⑦成果と課題の確認

予想以上の参加児童数 ➡ 指導者を増やしたい
来年度は、保護者ボランティアも募集

情報共有

「九九マスター教室」の取組

①情報共有

放課後補習教室の現状（九九ができない子）の報告

②ビジョンの共有

学運協として取り組むことを承認

（R6・4月の学運協）

「算数が苦手な子にも九九をマスターさせよう」

③アクションの共有

3年生向け夏休み「九九マスター教室」の提案・協議・承認

実施方法を協議・承認

（R6・6月の学運協）

九九マスター教室の開催（夏休み6日間）

④成功体験の共有

「九九マスター教室」の実施報告

（R6・9月の学運協）

参加児童数延べ84名、指導者数延べ51名

①情報共有

振り返り → 成果と課題の確認

（R6・9月の学運協）

参加児童が予想以上に多く、指導者を増やしたい

指導者として、保護者ボランティアを募集したい

話し合いと活動による共有の好循環

<これまでだったら・・・>

① 情報共有

放課後補習教室の現状（九九ができない子）の報告



地連協で委員から意見

学校内で検討

学校が改善策を立て、実施方法を決める
必要に応じて、学校からスクールサポートに依頼



九九マスター教室の開催（夏休み6日間）



② 評価

「九九マスター教室」の実施報告



地連協で委員が評価

学校内で検討

①「つながりのある話し合いの場ができる」

- 「学校・保護者・地域の話し合い」が大切
「新しい活動をしなければならない」ではない
- 「何のために」という目標を共有した上での取組
地域全体で子どもたちのために活動
- 取組の拡充だけでなく、活動内容や役割分担の
見直し（整理・統合）、廃止についても話し合う

<熟議>

「**熟議**」とは、多くの当事者による「**熟**慮」と「**議**論」
を重ねながら、課題解決を目指す対話のこと
「報告」（情報共有）だけで終わらない

報告

熟議の様子

熟慮



「議論」

グループ協議

全体共有

CSになると、何が変わるのか？

②「学校運営にかかわる」 報告だけで終わらない

- 未来を担うこどもたちのために話し合って決める
「何のために」「何をする」「どのようにする」など
- 話し合ったことを、地域と学校で協力して実現する



- こどもたちのための活動が活発になる



- 自己肯定感の高まり・地域の担い手としての自覚

<どんなことが行われているか>

馬込第三小事例 「学運協委員による熟議」



令和6年度 第3回学運協（9月7日）

「学運協委員による熟議」



「馬三わくわくサマースクール」として実現



オリジナルキーホルダーを作ろう



和太鼓体験



水彩画教室



レクリエーションで遊ぼう

<どんなことが行われているか>

大田区独自教科「おおたの未来づくり」

小学校5・6年生が、実社会で活躍する人とともに、
「ものづくり」や「地域の創生」にチャレンジする教科
「授業パートナー」

こどもたちに、直接かかわる重要な役割

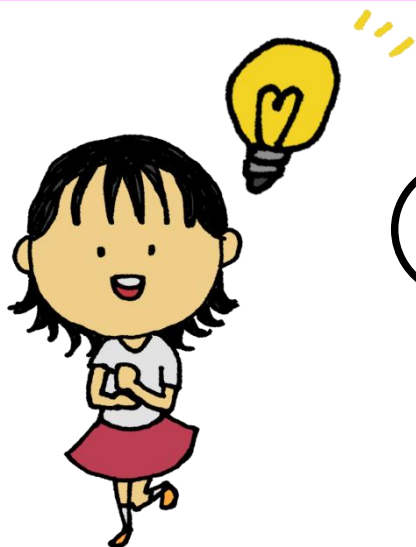
こどもたちのアイデアに、アドバイスや価値付け

※馬込第三小事例 「馬込のお店をPRしよう」

「馬込大盆踊り大会を盛り上げよう！」

<本日のまとめ>

「CSになると何が変わるのか」



①「つながりのある話し合いの場」 ができる

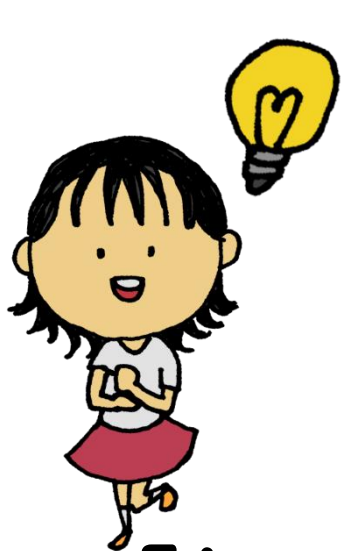
いろいろな立場の人たちが一緒に集まり
未来を担うこともたちのために
学校運営について話し合うことができる

（学運協の委員だけでなく、地域全体で）



<本日のまとめ>

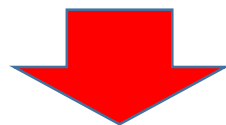
「CSになると何が変わるのか」



②学校運営にかかわる 報告だけで終わらない



「何のために」「何をする」「どのようにする」などについて
未来を担うこどもたちのために話し合って決める



話し合ったことを、地域と学校で協力して実現する



CS（コミュニティ・スクール）によって

「地域とともにある学校づくり」を推進

学校の目標を共有し、地域と一体となってこどもたちを育む

「学校を核とした地域づくり」を推進

ともにこども（将来の担い手）を育て、ともに地域を創る



CS（コミュニティ・スクール）によって

みなさまのような

「魂」をもった人に育てる

こどもの頃に体験したことを

還元できる人に育てる

